

**令和元年度
福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生有識者会議
議事概要**

【日時】

令和元年12月2日(月)午後3時30分～午後5時10分

【場所】

ハピネスふくちやま 3階 会議室1

【出席者】

別紙のとおり

【事務局】

別紙のとおり

【会議の概要】

1 開会

2 あいさつ(伊東副市長)

- ・福知山市の総合戦略は、国の総合戦略を受けて平成27年10月に策定を行い、有識者会議の中で年度ごとに効果検証を行っている。
- ・現在の総合戦略が令和元年度までとなり、委員の皆様からいただいた検証を踏まえて、次期総合戦略の策定につなげていきたいと考えている。
- ・それぞれ専門の立場から、多角的・総合的な御意見を賜りたい。

3 委員紹介・委嘱状交付・事務局職員紹介

4 平成30年度実施事業の概要説明及び意見交換【資料1・資料2】

事務局から地方創生関係交付金の事業ごとに説明を行った後、委員から意見を聴取した。

5 第2期「福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生総合戦略」の策定について【資料3】

事務局から、資料3をもとに策定の方針及びスケジュール等を説明。

6 閉会

【主な意見】 ★＝委員発言 ☆＝事務局及び事業担当課発言

①地方創生交付金「地域資源の活用と創業支援による交流人口倍増戦略推進事業」について

★委員

- ・KPIの達成状況について、「中心市街地歩行者・自転車通行量」が目標値に対して、3分の1の実績値であったが、どのような要因があったのか。

☆事務局

- ・一つの要因としては、広小路通で無電柱化工事を行い、歩道で一部交通規制が敷かれたことにより、通行量が減ったと思われる。

- ・また、元々のKPIの設定にも無理があったと思われ、次期総合戦略における課題であると考えている。

★委員

- ・KPIの「テナントミックス事業開設店舗数」について、目標値6店舗に対して実績値15店舗ということで、大きく増えているが、主に出店した場所はどこであったか。また、出店者がローカルなのかチェーン店なのか教えていただきたい。

☆産業観光課

- ・出店エリアについて、駅正面通りと広小路通りのエリアで多く出店している状況。業種としては、チェーン店はなく、美容室、ケーキ屋、うどん屋、雑貨屋等、主に飲食店が多い。

★委員

- ・NO.4「地域資源の活用と創業支援による交流人口倍増戦略推進事業」と、NO.5「中心市街地空き家・空き店舗等対策支援事業」との関連性は、

☆産業観光課

- ・NO.5「中心市街地空き家・空き店舗等対策支援事業」については、中心市街地のエリア内において、ストックバンク登録業務ということで、まちづくり会社に業務委託をして、中心市街地エリアの中へのまちなか居住の促進を図るということで、委託している。NO.4「地域資源の活用と創業支援による交流人口倍増戦略推進事業」については、こちらも同じく中心市街地エリアであるが、主に駅正面通りの福知山フロント株式会社に対して実証事業等の業務委託を行っている。

★委員

- ・エリアで分かれているだけということなのか。内容としては同じだと感じる。

☆産業観光課

- ・内容としては同じである。

★委員

- ・KPIの13店舗開設された結果を受けて、NO.4の事業が大きく貢献したのか、それともNO.5の方なのか見えてこない。要するに力がばらけてるのではないか。
- ・例えば一つのエリアであれば、どのようなニーズがあって、そのニーズに対してどのようなものが供給できるのかということ、まずやるべきではないかと思っている。

★委員

- ・NO.1「佐藤太清記念美術館特別展事業」について、B（相当程度効果があった）としているが、平成30年度で入館者数が減っているにもかかわらずB評価とした理由は、
- ・また、市民アンケート等を行っているか教えてほしい。

☆文化・スポーツ振興課

- ・入館者数は年々減少しているが、平成29年度の取組として「安野光雅展」の開催やその他にも著名な方の展示を行い、5,970人の結果となった。平成30年度については、この史代さんの原画展をメインに行ったが、想定以上に入館者を集めることができなかった。評価をつけた理由としては、展示会の他にワークショップの開催等を行い、市民が文化芸術に触れる機会を創出できたということで、B評価とさせていただいた。
- ・アンケートは実施していない。ただ、佐藤先生に関しては、美術館の佐藤太清賞公募美術展の展開をしている中で、さらに情報発信をしていきたいと考えている。

★委員

- ・ワークショップをされているが、地域連携をどのように推進しているか教えてほしい。

☆文化・スポーツ振興課

- ・ワークショップの取組について、参加者数が伸びないというところがあり、10人から20人程度で留まっている状況である。今までは美術館でワークショップを取り組んできたが、今年度については、美術館から一旦外へ出して、商店街の空き店舗を活用した形で、新たに取り組んでいる。

★委員

- ・プロモーションを行うにあたり、図書館等で佐藤太清さんに関する本を紹介するなど、行政の中でも部局間の連携が必要である。
- ・住民をどこまで巻き込んでやるのか。その辺りがキーではないか。この事業で、住民が福知山ってこんな良い人がいるんだというようなイメージを持ってもらう。地域こそが主体という目線と、行政側も壁を越えて、部局間の連携を密にすることが大事。

☆文化・スポーツ振興課

- ・図書館では、佐藤太清さんの画集等を置いているので、興味のある方は見学していただけるようにしている。

☆事務局

- ・部局間連携については今後の課題であり、行政課題を解決するために複数の担当課が一緒になって取り組んでいくというような形をとれるような体制を考えていきたい。

②地方創生交付金「京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業」について

★委員

- ・NO. 11「移住・定住促進事業」について、空き家バンクを活用した移住世帯数が15世帯と目標値の3倍の結果であったが、どの地域が多かったのか。

☆まちづくり推進課

- ・これまでは三和地域が多かったが、平成30年度については夜久野地域が一番多かった。夜久野地域に関してはJRがあるというのが多くなった要因ではないかと感じている。

★委員

- ・市として、特定の地域に移住者を呼び込むというような施策があって取り組んでいるのか。先ほどの回答では、たまたま多くなったのかなという印象である。

☆まちづくり推進課

- ・夜久野地域は夜久野地域協議会というものがあり、この組織が移住に対して力を入れておられる。市も地域協議会の取組に協力した結果、移住者が増えた。

★委員

- ・市内でも空き家が多いが、登録されているのは一部だと思う。実際に福知山市に移住したいという人から、登録されていない空き家の方が良い物件があるという話を聞いたことがある。
- ・他の自治体では、空き家のリノベーションから行政がやるというところもある。建設業等も巻き込んで取り組んでいけば活性化につながるのではないかと。

★委員

- ・NO. 12「広域連携推進事業」について、図書館の相互利用が北部7市町で可能になったと

いうことで、大変良いことだと思う。

- ・GIS を使って分析したことがあるが、公民館は多いが図書館が少ないという地域もある。そういったところに本を置くことによって、図書館を補うような施設の複合化も考えなくてはいけない。

★委員

- ・明智光秀のプロモーションについて、今日、福知山駅に降りて俄然とした。明智光秀がどこにもないという感じを受けた。駅前の商店街を歩いてみたが、明智光秀の青い旗を立ててあったが、何か元気がない。それに比べて、滋賀県に行くと大津市から長浜まで駅を降りたら明智光秀ばかりである。福知山市ももっとアピールすべき、滋賀県に押されている。残念だと思っている。

☆秘書広報課

- ・JR にも懸垂幕をあげさせていただいていたところであったが、安全管理ということで、下げることとなった。
- ・駅ののぼりは、担当部署と調整をさせていただいているが、車からの視野を防ぐということで制限がある。
- ・今ののぼりは薄い水色であるが、現在、紫色のものを作成中である。「麒麟がくる」のロゴをNHK から許可をいただいてつけさせてもらう。
- ・大河ドラマの放映は2週間延期になったが、福知山ミュージアムは予定どおり令和2年1月11日に開館するので、見ていただきたい。

★委員

- ・NO. 10「ふるさと就職おうえん事業」について、合同企業説明会を都市部でされているが、誰を対象にしているかということが重要であると思っている。大学新卒者を対象にするのであれば、5月に行うには面接が解禁になっていない。6月以降に解禁になるので、就職面接会とするのであれば6月以降に行うのが良いのでは。

☆産業観光課

- ・説明会の実施時期については、6月の面接解禁が今後撤回になるということも含めて、次年度以降検討を踏まえて、実施していきたいと考えている。

★委員

- ・NO. 10「ふるさと就職おうえん事業」のアウトカム・アウトプットについて、どの数字を基にされたのか教えていただきたい。

☆産業観光課

- ・アウトカム・アウトプットの数値については、平成30年度から北京都ジョブパーク事業を統合して実施しており、その分を加算して計上している。北京都ジョブパーク事業を外して、平成28・29年度と同様の事業数でカウントすると、就職内定者数は54/40、ワークショップ参加者数は235/150、面接会参加企業数は210/160、面接会参加者数は314/250となる。

★委員

- ・NO. 14「農商ビジネスフェア開催負担金」について、評価をつけた理由に「参加者から販路開拓や新商品開発に結びついたという報告を受けている」とあるが、具体的にどのくらいの件数があったのか教えていただきたい。

☆産業観光課

- ・平成30年12月6日に舞鶴市の赤レンガパークで開催させていただいた。その中で、

生産者が31者、事業者が30者、関係者を含めると150名が参加するビジネスマッチングを行うイベントとなった。協議会が把握する中では、マッチング成立が3件、新商品開発は0件ということで報告を受けている。ただし、協議会が把握していない中で小さなマッチングがあったということは聞いているので、この数字が全てではない。

- ・参加された事業所からは、他の事業所から意見を聞いてブラッシュアップできる良い機会となったという意見を多くもらった。

③地方創生交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業」について

★委員

- ・KPIの「企業支援制度を利用して起業した人の数」について、実績が11人であったが、創業の機運を高めるということで、色々と行政のほうでも取り組んでいただいていると感じている。
- ・高校生ビジネスグランプリは、高校の中で地域の問題や地域の資源を活かしたニュービジネスを考えていこうというものである。
- ・是非、そういったものを活用いただきながら福知山市の創業者を増やして行ってほしい。

☆産業観光課

- ・KPIの実績値については、起業時の初期費用への補助金と創業する時に融資を利用した方への利子補給制度を利用された数である。
- ・実績値が少ない一つの要因としては、融資制度を利用して起業される人数が明らかに減ってきている。平成29年度は利子補給金を利用して起業した人数が10名を超えていたが、平成30年度においては、前年度の申込者の支払いが2件、新規の申し込みが1件だけであった。
- ・近年、小さく始めて大きく育てるといような創業になってきているので、融資制度を利用する人数が減ってきているというのが、KPIの実績値に反映されているのではないかと考えられる。
- ・高校生のビジネスグランプリについては、福知山市の中にも公立大学や淑徳高校等、様々な業種の教育機関があるので、ビジネスグランプリに積極的に参加させていただけると、福知山市の名前を出すチャンスにもなるというのは担当課の中でも話題に出ているので、引き続き検討させていただきたい。

★委員

- ・NO.16「福知山市伝統文化後継者育成事業」について、丹波漆・丹後和紙の他にどういったものが伝統文化に入るのか教えていただきたい。

☆文化・スポーツ振興課

- ・この事業に関しては、丹波漆・丹後和紙の他に由良川藍の3点が対象となっている。いずれも府の無形文化財に指定されている。伝統技術ということで長らく伝えられてきた、独特の技術ということで選定しているので、現在のところ3点が対象となっている。

★委員

- ・藁やまな板も、広い意味では伝統文化になると思われる。
- ・こういったものを上手く活用できれば、もっと福知山をPRできるのではないかと。

④地方創生交付金「今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業」について

※特に意見なし。

⑤地方創生拠点整備交付金「北近畿『知』の拠点プラットフォーム事業、まちかどキャンパス事業」について

★委員

- ・KPIの目標は達成しているが、市民の評価はどうか。
- ・また、COC事業（いわゆる行政と大学が連携してやっていくもの）に取り組むことは考えておられるのか。

☆大学政策課

- ・プラットフォームということで図書館を整備して、地域の市民を呼び込んだところ、1,500人を超える方に利用してもらえたこととなった。
- ・また、まちかどキャンパスは、シャッター街となっている商店街の空き店舗を改修し、サテライトオフィスができたことで、市民も間近に学生と触れ合える機会となった。
- ・COCについては、残念ながらまだ大学ができたところで、COCにエントリーする資格がなかったということで、現在はまだできていない。まずは行政と一緒に地方創生で街に風を吹かせていくということで、情報学部が新設されることに伴い、特別研究の分野で、しっかりやっていきたいと考えている。

★委員

- ・情報学部の学生募集の広告が神戸新聞に掲載されていた。

☆大学政策課

- ・残念ながら学生の出身地が一番多いのが京都府でなく兵庫県である。

⑥地方創生道整備交付金「北近畿の拠点“福知山”ネットワークを強化する道作り計画」について

★委員

- ・NO.27「地域間交流促進ネットワーク事業（林道整備）」について、大江山へ2回ほど行ったことがある。ところが、結局行くのには車がないと行けない。
- ・良いところだと思うし、雲海もこの時期非常に綺麗に見られるので、季節によって登り口までバスを走らせるということを行い、観光入込客を増加させるということも検討できるのではないかと。公立大学に山岳部があるか分からないが、そういう方がいれば、サークルのつながりから人を呼び込めるかもしれない。

⑦会議全体を通しての意見

★委員

- ・商店街がやるイベントに対する評価であるとか、市民の声や市民がどう評価されているのかというものを、もっと伝えていただきたい。